
『黒』の見た泡沫

ムーギネーター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『黒』の見た泡沫

【Nコード】

N5816Q

【作者名】

ムーギネーター

【あらすじ】

全ての色を塗り潰す『黒』。ある時彼が見たのは――

（前書き）

意味不明な駄文です……

それでも構わない方だけが読んで下さい！

切欠は、些細な事だった。

『仕事』帰りに偶々通り縋った街角で歌う彼女を見た。たったそれだけの事なのだ。

その『たったそれだけ』に俺は惹き付けられた。彼女の清らかな歌声や眩い笑顔が、磨り切れた俺の心に響いて行くのを感じていた。

そのせいだろう。何時しか俺は『仕事』の後に必ず彼女のいる街角へいく様になった。行く度にその路上ライブは盛況の度合いを増して彼女の顔を見る事も出来ない時さえあったが、それでも歌声さえ聞こえれば満足だった。

彼女の目には俺など入ってはいないだろう、それでも構わなかったいや、それで良かった。所詮俺は『黒』。触れた物全てから色を奪う『黒』が彼女に近付けば、彼女の『色』を奪ってしまうから。こうして遠くからひっそりと見ていられれば、それで十分だった。何時までもこの時が続けば良い、柄にも無く俺はそんな事さえ考えていた。

だが、現実は何処までも残酷だった。

ある時俺は、何時も通り仕事をした。

標的は1人の男。汚職で多くの人を苦しめ、自殺者まで出しながらのうのうと暮らしているその男を殺してくれと言うのが俺に来た依頼だった。

別に義憤なんて感じない。当然だろう、仕事なのだから。

単にその政治家が殺される程の恨みを買う様な愚か者だったと言うだけのだから。

だから俺は引鉄を引いた。自分でも驚く程あっさり引かれたそれは簡単に男の頭を貫き、それを動かぬ肉塊へと変えた。

今日もまた終わった……。俺はそう思い、何時もの場所へ行った。だがそこには彼女はおらず、唯蛻もぬけの殻と化した空間が寂寞とした雰囲気を醸し出しているだけだった。

風邪でも引いたのだろうか、そう思い俺はその場を去った。そして寂しく街灯が輝く夜道の中を帰路に着いてから5分後、

『俺の身体を銀色の刃が貫いた』。

痛みが全身を襲って意識が急速に失われて行く中、俺は声を聞いた。それは俺が今日聞けなかった彼女の声。何よりも聞きたかったハズの声。

しかしその声は今、俺と同じ黒に侵食されていた。父の仇と叫ぶその声は、鮮やかさを失っていた。

薄れ行く意識の中、俺は後悔した。『黒』が『色』に近づくべきではなかったと。俺が彼女を知らなければ……。『色』に憧れなければ、それが失われると言う最悪の瞬間を知る事も無かつたろうに、と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5816q/>

『黒』の見た泡沫

2011年10月6日01時39分発行